

ナンバリング		授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)	授業形式								
E142J013		彫刻演習 (Seminar of sculpture)														
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	4	教育学部 平成31年度以前入学生 用			氏名 村上 佑介 E-mail y-murakami@oita-u.ac.jp 内線 7594										
授業の概要	この授業では、「サイト・スペシフィック」という概念をキーワードに、その地域の意味合いや、物理的な空間と繋がりを持つパブリックアートの文献調査、実地調査、作品制作を行うことで、社会における彫刻の在り方について考察する。															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
目標1 環境にあった立体作品をイメージし、形にすることができる。																
目標2 学習成果を様々な機材や素材などを活用し、効果的に発表(プレゼンテーション)することができる。																
目標3 地域における芸術に対し自分なりの意見を持つことができる。																
目標4																
目標5																
目標6																
目標7																
目標8																
目標9																
目標10																
授業の内容																
1 ガイダンス及び課題について：サイト・スペシフィックに関する基本的な定義を説明した上で、本授業の目的・目標を明示し、課題意識を与える。																
2 「サイト・スペシフィック・アート」について：日本および世界で行われているアートプロジェクトより																
3 「パブリックアート」について：身近なパブリックアートより																
4 マケット制作：場所の選定																
5 マケット制作：アイデアスケッチ																
6 マケット制作：土台作り(スタイロフォームの加工) +パブリックアートの調査発表																
7 マケット制作：本体(芯材制作) +パブリックアートの調査発表																
8 マケット制作：本体(肉付け)																
9 マケット制作：本体(成形)																
10 マケット制作：本体(細部)																
11 マケット制作：本体(着色)																
12 マケット制作：背景(建物など)																
13 マケット制作：背景(人物など)																
14 マケット提出、プレゼンテーション、講評会																
15 「総括」：本授業における成果と課題を理解する。																
ラック	A:知識の定着・確認	制作中に各個人作品の指導のなかで、確認、意見交換を行う。表現意図とプロセスについて効果的にプレゼンテーションする。				工夫	その	なし。								
ア	B:意見の表現・交換					夫	他									
ニ	C:応用志向															
テ	D:知識の活用・創造															
ン																
グ																
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	自身の身の回りにあるパブリックアートについて興味を持ち、調査・考察を行う(25h)														
	事後学修	自他の発表やマケット制作を基に、地域のアートプロジェクトやサイト・スペシフィック・アートに目を向け、その意義や目的について考察する(35h)														
教科書	教科書は使用しない。 適宜資料を配布する。															
参考書	・杉村社吉『パブリックアートが街を語る』東洋経済新報社、1995 ・竹田直樹『パブリックアート入門』公人の友社、1993 ・竹田直樹『日本の彫刻設置事業』公人の友社、1997															
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10				
	スケッチ及び完成作品の提出	60%														
	パブリックアートの調査と発表	20%														
	完成作品のプレゼンテーションおよびレポート	20%														
注意事項	実習では汚れてもよい服装・靴を着用のこと。 彫刻・工芸室にある材料は使用可だが、その他必要な材料は各自で準備すること。															
備考	なし。															
リンク																
	URL															

担当教員の 実務経験の 有無	
教員の実務 経験	特別支援学校教諭（美術）、高等学校教諭（美術）
教員以外の 指導に関わ る実務経験 者	なし。
実務経験を いかした教 育内容	中学校および高等学校の立体造形指導に必要な知識と技能を習得する。